

《 ウッディチキンレポート 5 》

ウッディチキン／沖縄例会

『村上世永先生』

講演レポート

日 程 : 2005年6月15日(水)
講 演 : PM2:30~4:45
沖縄県宜野湾市
カルチャーリゾート フェストーネ 1F <参加者約65名>
親 睦 会 : PM7:00~9:30
居酒屋「察度(SATTO)」 <参加者約35名>



レポート作成

ウッディチキン総事務局
谷口 隆

<http://woodychicken.com> info@woodychicken.com

《村上世永先生講演》 (2:53~)

●「イチャリバチョーデー」

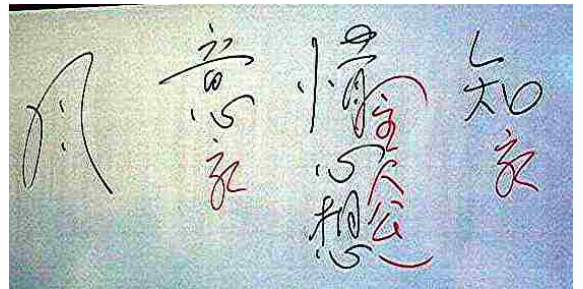
- ・沖縄方言で、「会った瞬間からみな兄弟だ！」

●執着からの脱出

- ・岡潔博士（数学者、1901-1978）の言葉より、「まず心がある、心があるから命がある」と言われている。
- ・これを「ない」にして読んでみる。「まず心がない、心がないから命がない」
- ・「ギリシャキプロス船/座礁事件」「ぼるねお丸/座礁事件」。執着しているから座礁から抜け出せない。計算通り積荷の何分の1かを海に投棄して、満潮と共に船は脱出することが出来た。
- ・われわれは、心の中に執着し過ぎていないものはないか？
- ・「欲しい」という欲望がど仏に刺さっている。捨てればよい。

●知、情、意、風

- ・「知」「意」は家来。「情」が主人公である。
- ・夏目漱石の「草枕」の冒頭の一説に『知にはたらけば角が立つ、情に棹差せば流される、意地を通せば窮屈だ、とかくこの世は住みにくい』と書かれている。
- ・「情に棹差せば流される」とは、落とし穴のことである。



●三つの庭

- ・庭が三つある・・・関心の持ちやすい順に、「①世間の庭」「②自然の庭」「③超自然の庭」である。

①世間の庭

- ・「社会から離れられない人々がそこに住んでいる。」
- ・楽をしたい。目に見える世界。脳を使う。メインストリートにはパチンコ屋が多い。関心が持ちやすい。
- ・日常だから今日も明日も変わらない。潤いが無い。奪い取る力を付ける。
- ・刺激を段々強く与えないといられない。男らしさ、女らしさがなくなる。
- ・日本のコンビニの前で座っている子を外国に連れて行って友達になってもらえるか？ノーである。
- ・こうなったのは、情が抜け落ちたからである。

②自然の庭

- ・「情緒の庭で子供はそこで安心して遊んでいる」
- ・生きる意味を考える。目に見えない世界。非日常。2~3才の子供は絶対に叱らないこと。叱るのは、大人のエゴ。子供は生後2ヶ月頃から凄いいスピードで覚えていく。譲る力を付ける。

③超自然の庭

- ・「自由の庭であるが、関心が持ちにくく、持続し難い」
- ・世界が広い。心の珠を徹底的に磨く。
- ・②自然の庭のすぐ角にある。
- ・日本は①世間の庭にこだわり過ぎた。後40年は続く。日本人は砂漠で名刺交換するタイプである。
- ・子供が深夜徘徊をしているのは、両親の仲が悪いなど家庭が寒いからで、まだ外の方がまだだからである。

●情の喪失の根本

- ・アメリカ進駐軍の日本を腑抜けにするための戦略として「スポーツ」「セックス」「シネマ」の3Sを与えた。この3つは全てお金の換算される。
- ・教育基本法前文②に「個人の尊厳を重んじ...」という文章があるが、本来「人間の尊厳を重んじ...」であるべきである。これを変えないと今の状況は変わらない。

●サムライ魂

- ・台湾の李総統は昔、日本の教育を受けた。彼は日本のことを熟知していて彼の本にはサムライスピリットが書いてある。
- ・ラストサムライで、オールグレン大尉（トムクルーズ）は天皇からの「勝元はどのように死んだのか？」という質問に対し、「どの様に生きたかです」と答えるシーンがある
- ・憲法9条で、世界で1つだけ戦争放棄をうたっている国である。

●直感・感性

- ・子供は直感。今感性が錆びている。
- ・アポロ11号が月に行った時、世界は騒いだが自分はもう止せと思った。
- ・岡潔氏の本は手元にある。



- ・岡潔氏は言った。「何故、そんな近いところへ行くのか？」
- ・湯川秀樹博士の本には、あれはお金の無駄使いであると書いてあった。湯川博士は素粒子を発見された方だが、「自分の心の内は見えない」と言った。
- ・岡さんの本は、本当に理解しようと思ったら10年かかる。
- ・数学者、物理学者の行き着く先は人類・世界・地球である。
- ・アポロの飛行士が緑の地球を窓から眺め、パチパチと赤い部分が見えた。ベトナム戦争の戦火だった。
- ・月面に降りてまず探したのが「神」だった。そして、乗組員はほとんど宗教の世界に入った。

●誰と働きたいか？

- ・自分は船に乗っていた。
- ・一担乗船したら4～5ヶ月は帰ることが出来ない。
- ・船では一切人間関係は要らない。仕事をしに来ているのだから。
- ・料理長の目の前で、うまくないと行ってその料理を捨てる。
- ・料理長は、自分の仕事は作ることであって、本人が食べるかどうかは本人のことだからと言って全く気にしない。
- ・大海原において人間関係は小さなものである。②の庭にいるから。



●風について

- ・風とは「環境」のことである。
- ・「社風」を作ること。経営理念からの縦軸は変わらないが、横軸の目標は順次変化していく。
- ・「家風」マイファミリーはあるが、アワーファミリーはない。映画「ゴッドファーザー」はアワーファミリーの絆を題材にしていた。
- ・「校風」とは、誇りを持つこと。
- ・アインシュタイン(1879-1955)が直感予測した天体のズレは1.76秒だったが、天体望遠鏡で計測の結果、1.65秒だった。なんと、0.11秒しか違わなかった。彼は、宇宙が見えていた。
- ・ハワイのカメハメハの学生の一行が福岡で公演をした。その時の「あなたたちの学校はどういう学校ですか？」というインタビュアーの質問に答えて、「私たちは、ハワイの伝統と文化を誇りに重んずる学校です」ときっぱり言った。日本ではなかなか言えない。教育を見直す必要がある。
- ・個人より、人間の尊厳であること。

< 10分休憩 >

●より上級の庭へ

- ・自分のやっていることを貫くと、③の庭に入ってくる。
- ・集中する。瞑想する。
- ・瞑想することにより、②～③の庭に入ることが出来る。
- ・私は20代の頃、40～50は漢垂れ小僧、本当の勝負は60歳からと言われた。いくつになっても叱ってくれる師があるのはありがたい。



●法隆寺

- ・長野の生徒が法隆寺を見て、大工になりたいと言った。
- ・法隆寺は1200年建っている。宮大工の西岡常一棟梁(享年84歳)は、大工に、外の世界に対し、「見るな、聞くな、読むな」と言っている。
- ・口伝がある。「塔は木組み、木組みは木のくせ組み、木のくせ組は人の心組み、人の心組みは・・・」
- ・1000年経った木を切って、そこから1200年建っている。
- ・塔の北側には山の北側斜面の木を、西には西側の木を... という具合に、特性を合わせて切り出した。
- ・それぞれの木をどの様に使うかと言う構想・図面が全て棟梁の頭の中には入っている。

●教育を変える

- ・韓国でのあこがれの職業1位は科学者、2位は先生。
- ・日本の1位はスポーツ選手(金が儲かる)、2位は保育さん。
- ・今、生み損ないの子は40%いる。
- ・きれいな水を注ぎ、②の庭に連れて行くこと。
- ・沖縄は、誇りを持っている。
- ・琉球文化と日本文化の良い点を持っている。
- ・経済と魂を交換したら負け。
- ・沖縄は、情報を発信している。
- ・今の日本は、明治の心がすっぽり抜け落ちている。
- ・魂を変えて、教育を入れ替えていけば変わる。



●アインシュタイン

- ・1922年、アインシュタインが日本に来た。
- ・ソビエトの水爆の父、アンドレイ・サハロフ氏は、後に積極的な人権運動を展開して世界政府の樹立を提唱した科学者。
- ・1955年、紛争解決のために平和的手段を見出すことを勧告した「ラッセル・アインシュタイン宣言」がなされた。
- ・漢字は、心の珠を磨く道具である。
- ・アインシュタインの言葉「闘争に疲れたとき」を披露。
- ・以上です。

(4 : 45)

ためになるお話を、ありがとうございました。



次回、松山でお会いしましょう！